

三菱電機汎用シーケンサ 高速データロガーユニット クイックスタートガイド

今すぐはじめようデータロギング！

START

データ収集からレポート作成まで問題解析を迅速に。



contents

はじめに

P.01

高速データロガー
ユニットとは

P.02

高速データロガー
ユニットを使ってみよう

P.03

準備
実施前の準備

P.04

CASE1
トリガ発生前後の
データをロギング

P.07

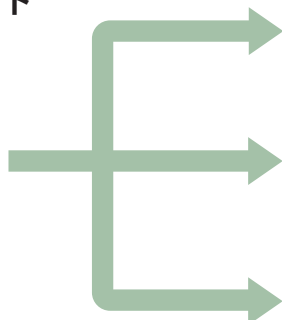
CASE2
連続ロギングした
データからレポート作成

P.16

はじめに

クイックスタートガイドでは、高速データロガーユニットを初めて使用する場合の基本的な導入手順を、わかりやすく説明しています。

クイックスタートガイド



高速データロガーユニットとは

高速データロガーユニットの使い方

ロギングの方法とレポートの作り方

■ 使用上の注意事項

シーケンサを安全に使用するために、QCPU ユーザーズマニュアルの「安全上のご注意」をよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしてください。

■ 関連マニュアル

本ガイドで取り扱う製品の関連マニュアルを紹介します。

- 高速データロガーユニット ユーザーズマニュアル (詳細編).....SH-080801
- GX LogViewer Version1 オペレーティングマニュアル.....SH-080887
- QCPU ユーザーズマニュアル (ハードウェア設計・保守点検編)SH-080472
- GX Developer Version8 オペレーティングマニュアル.....SH-080356
- GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (共通編)SH-080730

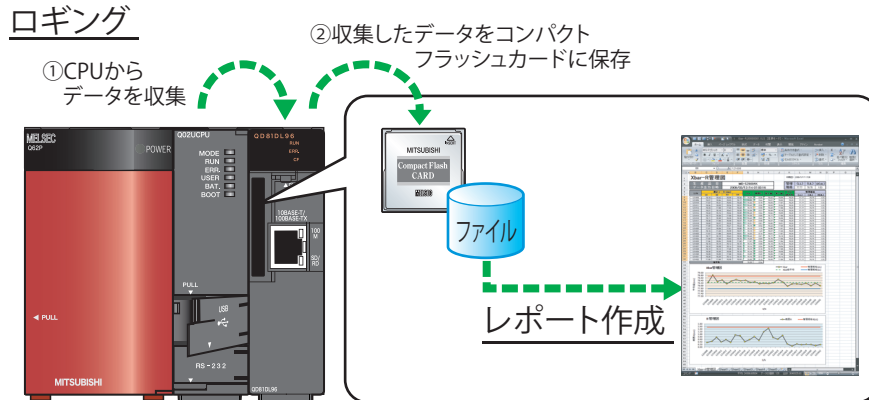
■ ガイドの見方

本ガイドで使用する記号とその内容について説明します。

記号	内容	例
	備考	レポート作成機能を使用する場合、ファイル形式に「バイナリファイル」を指定する必要があります。
[]	メニューバーのメニュー名 ([] → [] はドロップダウンメニューを示す)	メニュー [オンライン] → [接続先指定] を選択
	画面のボタン	ボタンをクリック

高速データロガーユニットとは

高速データロガーユニットは、シーケンサ CPU から収集したデータをロギング（記録・保存）するユニットです。データはコンパクトフラッシュカードにファイルとして保存されます。ロギングしたファイルから Excel 形式のレポートを作成できます。



機能の紹介

高速データロガーユニットには「データロギング」、「イベントロギング」、「レポート」の3つの機能があります。

データロギング：シーケンサ CPU のデータを指定の収集間隔でロギングする機能です。

イベントロギング：シーケンサ CPU から収集したデータを監視して、発生したイベントをロギングする機能です。

レポート：Excel 形式のレイアウトを事前に設定し、データロギングファイルおよびシーケンサ CPU で収集したデータから、数値やグラフの入ったレポートファイルを作成する機能です。

データロギングの方法として下記の2種類があります。

連続ロギング：指定の収集間隔で連続してロギングし、データロギングファイルを作成します。

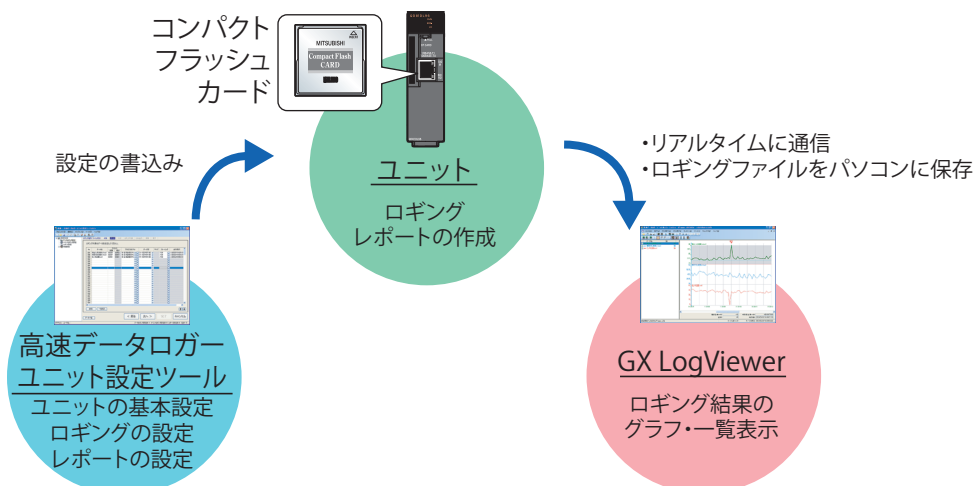
トリガロギング：トリガ（指定した条件の成立）発生の前後のデータをロギングし、データロギングファイルを作成します。

高速データロガーユニットと関連ツール

高速データロガーユニットには、下記の関連ツールがあります。

●高速データロガーユニットの設定を行う「高速データロガーユニット設定ツール」

●ロギングしたデータを表示する「GX LogViewer」

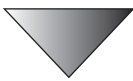


高速データロガーユニットを使ってみよう

本ガイドでは「トリガロギング」、「連続ロギング」、「レポート」の設定を実際に行うことで、高速データロガーユニットの操作方法を理解できます。

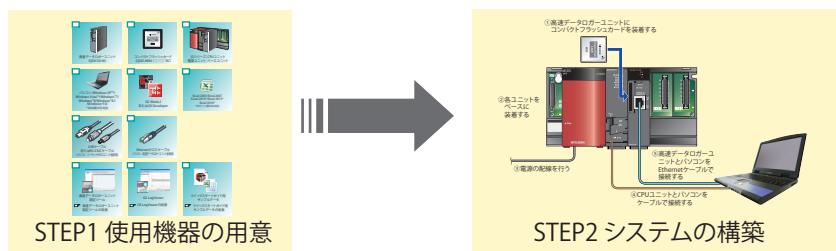
ガイドの流れ

ページ	内容
準備 P4～	実施前の準備 本ガイドで使用する機器およびシステムの構成について説明しています。



ページ	紹介機能	内容
CASE1 P7～	トリガロギング	トリガ発生前後のデータをロギング 例をあげてトリガロギングの方法とロギングデータの確認方法について説明しています。
CASE2 P16～	連続ロギングレポート	連続ロギングしたデータからレポート作成 例をあげて連続ロギングの方法とそれを用いたレポートの作成方法について説明しています。

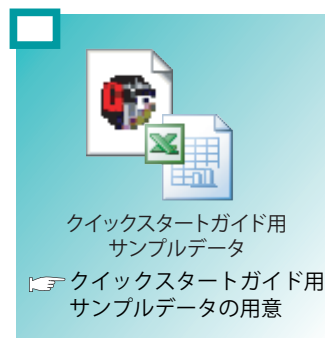
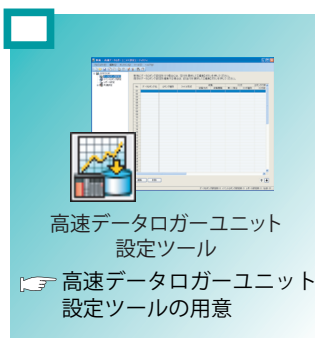
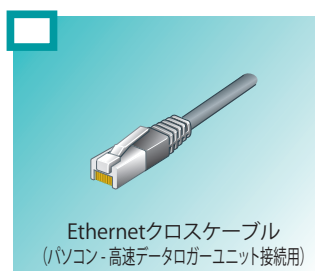
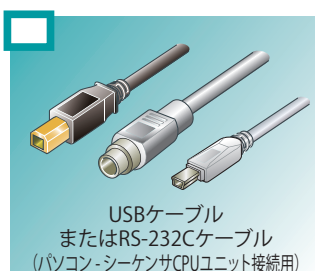
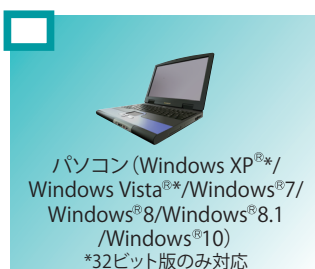
「準備」では CASE1 ～ CASE2 の操作を行うために下記の準備を行います。



STEP 1 使用機器の用意

CASE1 ～ CASE2 の操作で使用する機器およびソフトウェアを用意します。

用意するもの



本ガイドでは、Excel 2003/2007 を使用して説明しています。

■ 高速データロガーユニット設定ツールの用意

高速データロガーユニット設定ツールは「三菱電機 FA サイト」からダウンロードします。

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

入手後、三菱電機 FA サイトに記載されている手順に従ってインストールを行ってください。

■ GX LogViewer の用意

GX LogViewer は「三菱電機 FA サイト」からダウンロードします。

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

入手後、三菱電機 FA サイトに記載されている手順に従ってインストールを行ってください。

■ クイックスタートガイド用サンプルデータの用意

本ガイドの CASE1, CASE2 で使用するサンプルデータは「三菱電機 FA サイト」からダウンロードします。

サンプルデータの内容

- ・シーケンスプログラム (I08146-program_b) : GX Developer のプロジェクトファイルです。CASE1, CASE2 で使用します。
- ・レイアウトファイル (I08146-layout_a.xls) : レポート用の Excel 形式ファイルです。CASE2 で使用します。
- ・ロギング結果ファイル (I08146-CASE1_a.CSV) : CASE1 の手順でロギングした CSV ファイルです。

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

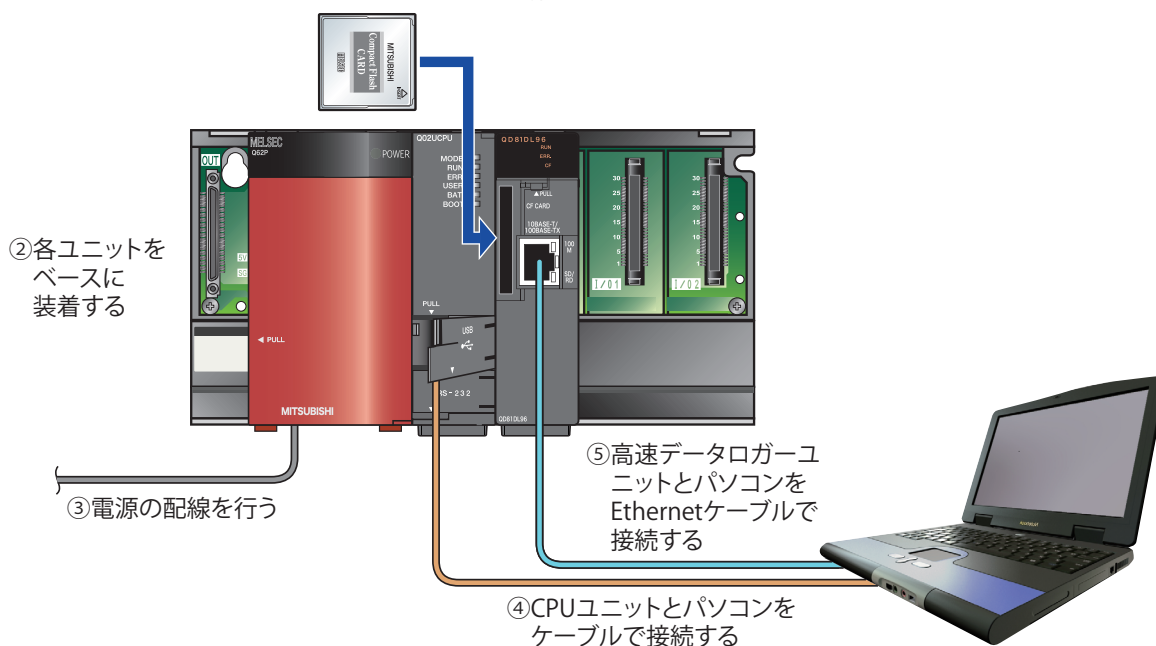
STEP 2 システムの構築

CASE1 ～ CASE2 の操作で使用するシーケンサシステムを構築します。

STEP 2-1 機器の装着および配線

①～⑤の順に行ってください。

- ①高速データロガーユニットに
コンパクトフラッシュカードを装着する



STEP 2-2 システムの起動

- ①電源ユニットの電源を投入する
- ②GX Developer または GX Works2 でシーケンスプログラム (I08146-program_b) を CPU ユニットに PC 書
込する
- ③CPU ユニットを「RUN」にする

■ 使用上の注意事項

本ガイドは上記に示すシーケンサシステムでの操作を前提に記載しています。

実際にシステムを設計／運用する場合には、下記ページで紹介しているマニュアルを必ずお読みください。

👉 関連マニュアル (P.1)

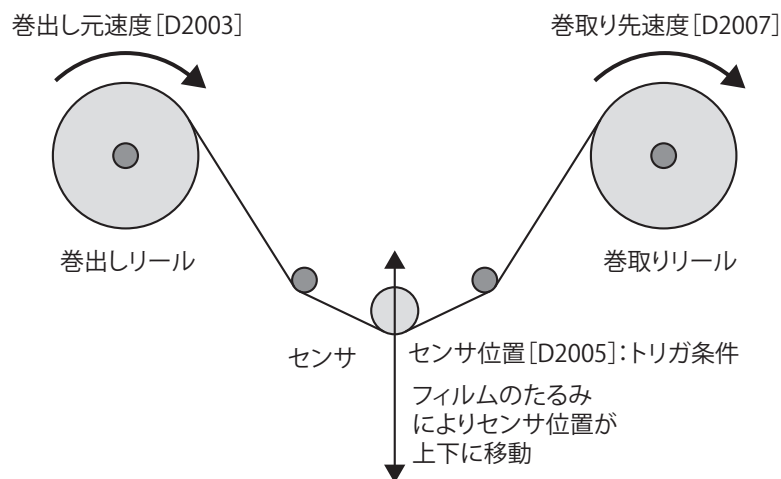
CASE 1 トリガ発生前後のデータをロギング

CASE1 では「トリガロギング」の方法について下記のような装置を例にして説明します。

■ イメージ

下記の装置は包装フィルムの巻取り装置です。

巻出しリールの速度が変化することによりセンサ位置が上下に移動し、許容範囲を超えたときトリガ（異常）が発生します。発生したトリガの前後各 100 行（レコード）のデータを 1 つのファイルに保存します。



■ データロギング設定内容

ロギング対象データ： 巻出し元速度 [D2003(ワード)], 巻取り先速度 [D2007(ワード)],
センサ位置 [D2005(ワード)]

トリガ条件： センサ位置 > 5, センサ位置 < -5

データ収集間隔： 0.1 秒

ロギング行数： トリガ発生前 100, 発生後 100

保存ファイル形式： CSV ファイル

■ 操作の流れ

上記を例に STEP1 ～ STEP3 の流れで説明します。



データロギングの設定 (トリガロギング)

指定した条件成立前後のシーケンサ CPU のデータをロギングする設定を行います。

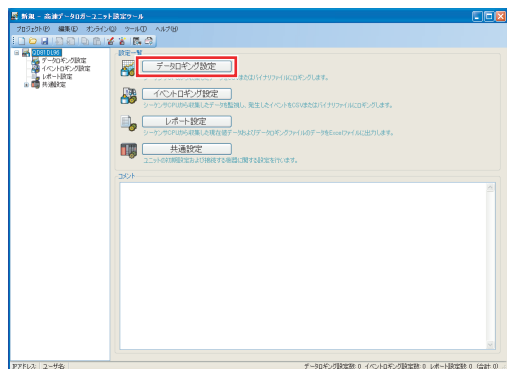
STEP 1-1 高速データロガーユニット設定ツールを起動する

- Windows® のスタート *1 → [MELSOFT アプリケーション] →
- [ロギング機能] *2 →
- [高速データロガーユニット設定ツール] を選択
- *1: [スタート画面] → [すべてのアプリ] または [スタート]
- → [すべてのプログラム] [すべてのアプリ] から起動します。

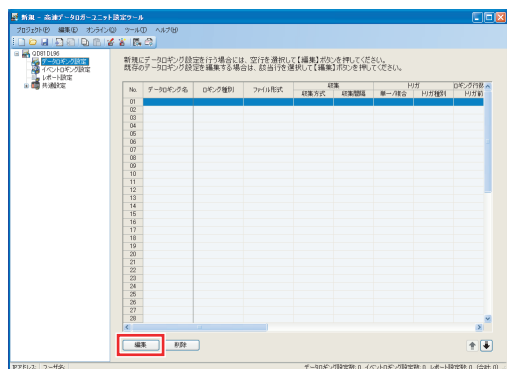
*2: Windows® 8 以降では表示されません。

STEP 1-2 データロギング設定画面を表示する

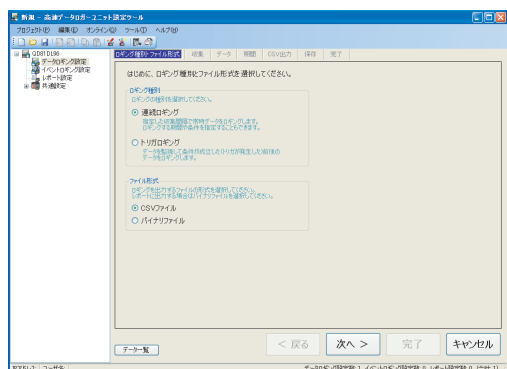
1 データロギング設定 ボタンをクリック



2 編集 ボタンをクリック

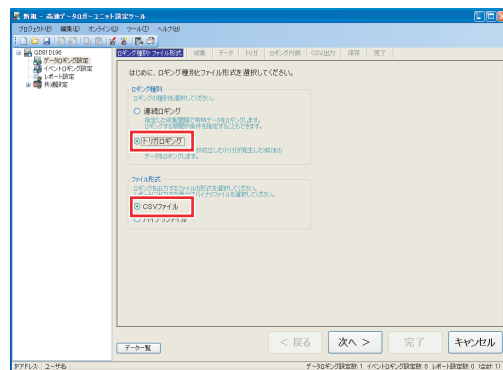


データロギング設定を行うウィザード画面が表示されます。



STEP 1-3 ロギング種別・ファイル形式を選択する

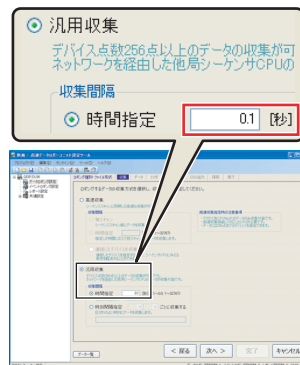
1 ロギング種別に「トリガロギング」を選択し、ファイル形式に「CSV ファイル」を選択



2 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-4 収集方式を選択する

1 「汎用収集」を選択し、「時間指定」に "0.1" を入力



2 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-5 ログング対象データを設定する

1 ログング対象のデータを入力

下記の画面のように入力してください。

No.	データ名	デバイス先頭	スケール
001	巻出し元速度	D2003	/100
002	巻取り先速度	D2007	/100
003	センサ位置	D2005	/100

デバイス（最終）、アクセス先 CPU、データ型、出力形式は自動的にデフォルト値が表示されます。

2 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-6 トリガの設定を行う

1 「複合条件」を選択してください。

トリガ種別が表示されます。

2 編集 ボタンをクリック

条件を指定する QR 結合 (No.1) ダイアログが表示されます。

3 1 回目のトリガ条件を指定

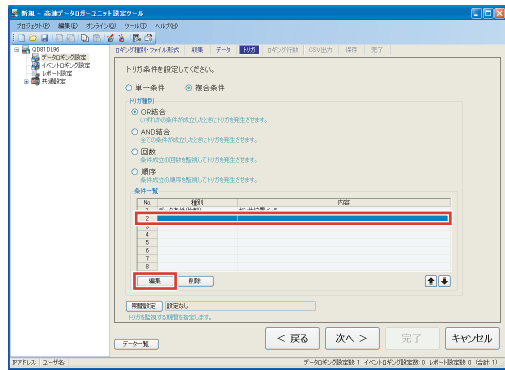
下記の画面のように指定してください。

4 OK ボタンをクリック

指定した条件が条件一覧に追加されます。

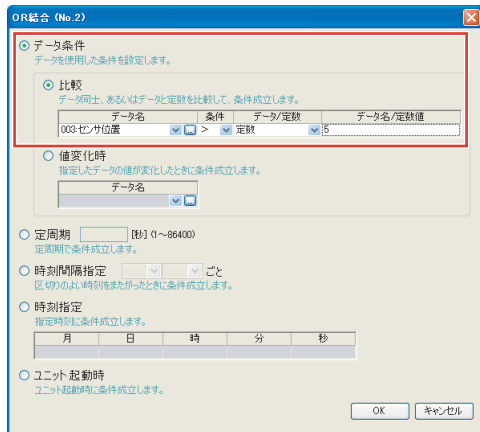
No.	種別	条件
1	データ条件(比較)	センサ位置 < -5
2		

5 条件一覧の2行目を選択し、**編集** ボタンをクリック



6 2つ目のトリガ条件を指定

下記の画面のように指定してください。

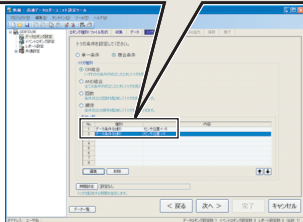


7 **OK** ボタンをクリック



指定した条件が条件一覧に追加されます。

条件一覧		
No.	種別	
1	データ条件(比較)	センサ位置<-5
2	データ条件(比較)	センサ位置>5



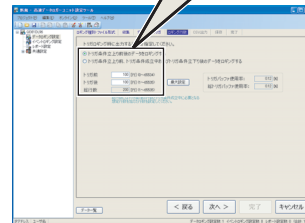
8 **次へ >** ボタンをクリック

STEP 1-7 ロギング行数を設定する

1 トリガ前に "100", トリガ後に "100" を入力

☒ トリガ条件立上り前後のデータをロギングする
☐ トリガ条件立上り前、トリガ条件成立中および

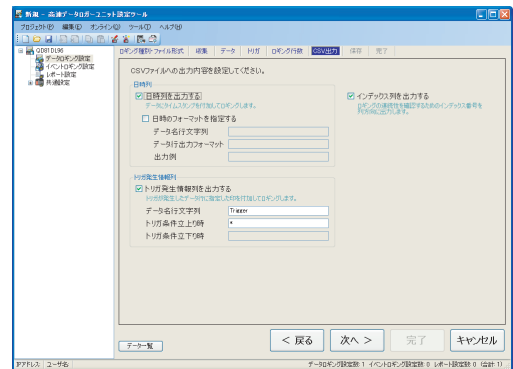
トリガ前: 100 [行] (0~65534)
 トリガ後: 100 [行] (1~65535)
 総行数: 200 [行] (1~65535)



2 **次へ >** ボタンをクリック

STEP 1-8 CSV 出力の設定を行う

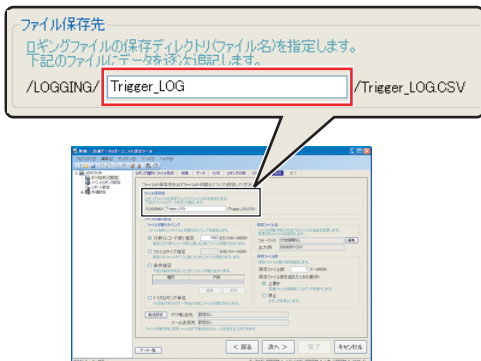
CSV 出力はデフォルト設定のまま変更しません。



1 **次へ >** ボタンをクリック

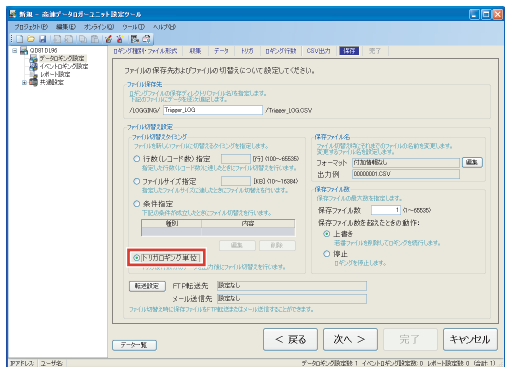
STEP 1-9 保存の設定を行う

1 ファイル保存先に "Trigger_LOG" を入力

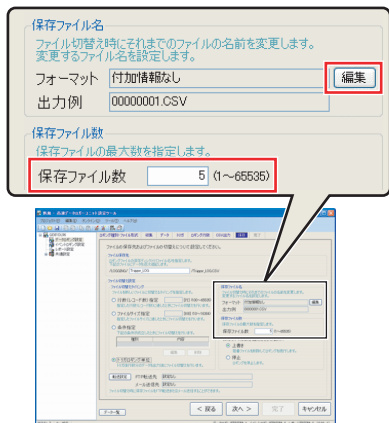


上記で指定した名称のフォルダがコンパクトフラッシュカード内に作成されます。

2 ファイル切替えタイミングに「トリガロギング単位」を選択

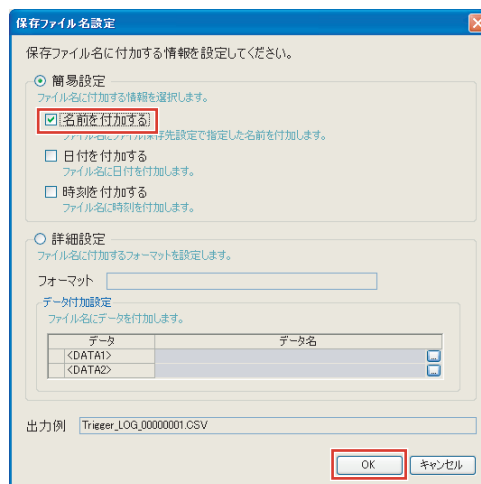


3 保存ファイル数に "5" を入力し、[編集] ボタンをクリック



保存ファイル名設定ダイアログが表示されます。

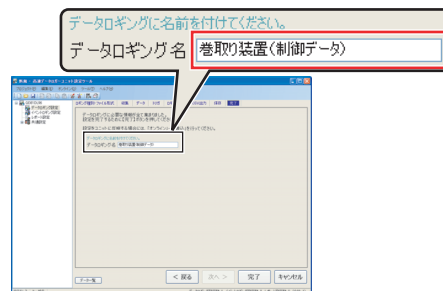
4 「名前を付加する」にチェックし、[OK] ボタンをクリック



5 [次へ >] ボタンをクリック

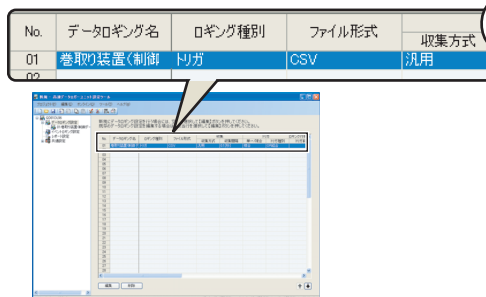
STEP 1-10 データロギング名を決定し設定を完了する

1 データロギング名に "巻取り装置 (制御データ)" を入力



2 [完了] ボタンをクリック

設定した内容がデータロギング設定一覧画面に追加されます。

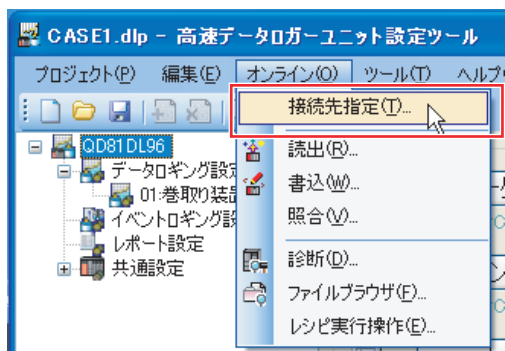


▶ End

STEP1 で設定したデータロギング設定を高速データロガーユニットに書き込みます。

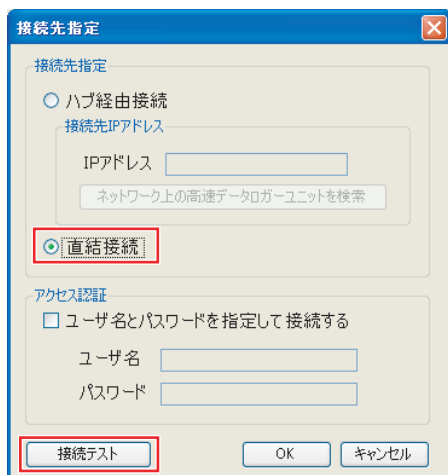
STEP2-1 接続するユニットを指定する

1 メニュー [オンライン] → [接続先指定] を選択

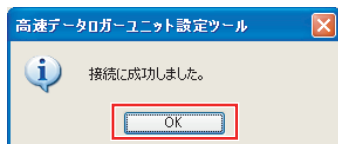


▼ 接続先指定ダイアログが表示されます。

2 「直結接続」を選択し、**接続テスト** ボタンをクリック



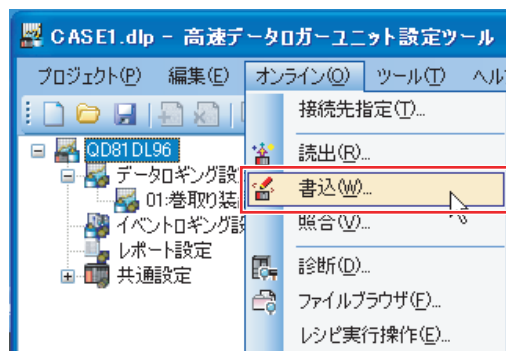
3 **OK** ボタンをクリック



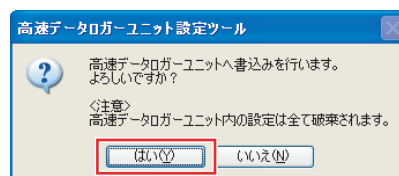
4 接続先指定ダイアログの **OK** ボタンをクリック

STEP2-2 設定を書き込む

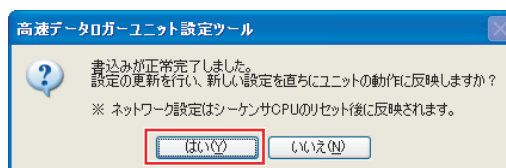
1 メニュー [オンライン] → [書き込] を選択



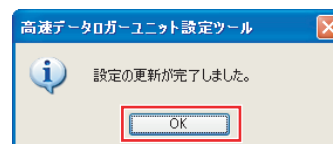
2 **はい(Y)** ボタンをクリック



3 **はい(Y)** ボタンをクリック



4 **OK** ボタンをクリック



高速データロガーユニットに装着されたコンパクトフラッシュカードの中にデータロギング設定が書き込まれます。準備 (準備) システムの起動 (P. 6) で CPU を RUN 状態にしているため、書き込み後すぐにロギングが開始されます。

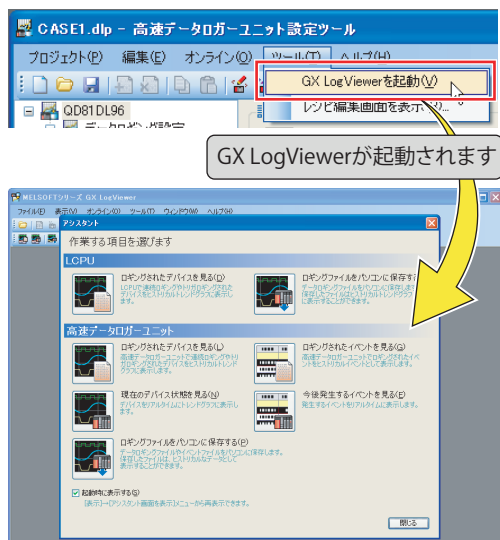
▶▶ End

ロギングしたデータを GX LogViewer でグラフ表示します。

STEP 3-1 GX LogViewer を起動する

高速データロガーユニット設定ツールから GX LogViewer を起動します。

1 メニュー [ツール] → [GX LogViewer を起動] を選択



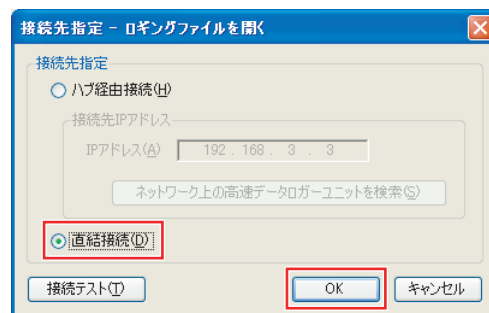
STEP 3-2 表示するデータを指定する

1 アシスタント画面上的の [接続先指定] ボタンをクリック



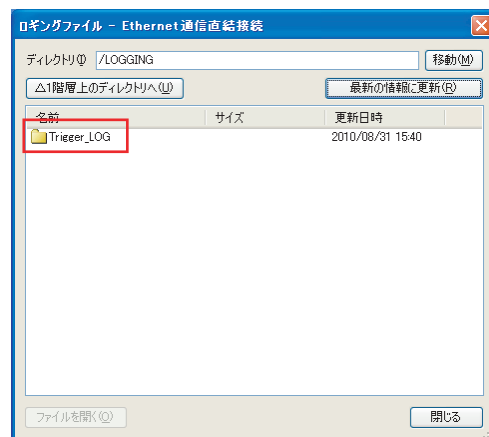
接続先指定ダイアログが表示されます。

2 「直結接続」を選択し、[OK] ボタンをクリック



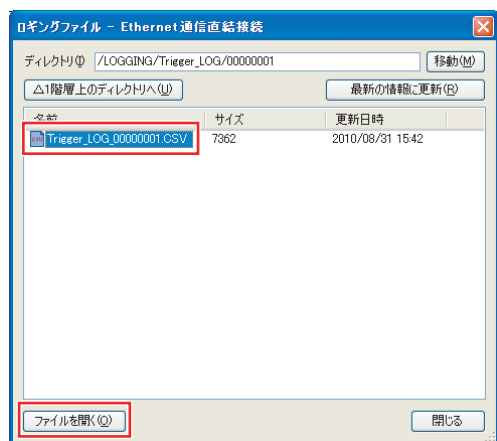
ロギングファイルダイアログが表示されます。

3 表示されているフォルダを「Trigger_LOG」→「00000001」の順にダブルクリック



一覧にフォルダが表示されない場合は、
最新の情報に更新 (R) をクリックしてください。

- 4 表示されている CSV ファイルを選択し、**ファイルを開く(O)** ボタンをクリック



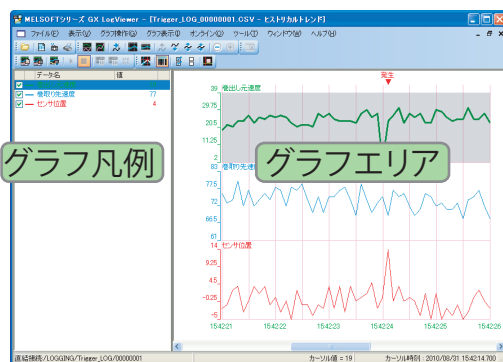
アシスタント画面の背面にデータ名の一覧およびグラフが表示されます。



- 5 アシスタント画面の **閉じる** ボタンをクリック



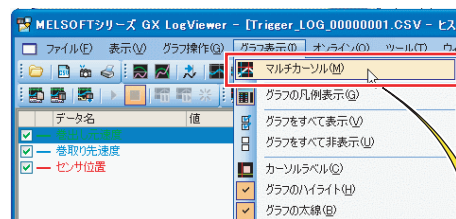
グラフ凡例とグラフエリアに、データロギング設定で対象データに指定したデータが表示されます。



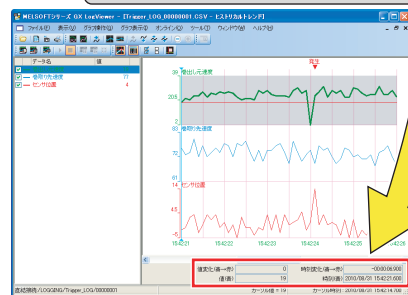
*本ガイドでは背景色をグラフプロパティ ([グラフ表示] → [グラフプロパティ]) の設定により白色に変更しています。
グラフプロパティでグラフの線の色も変更できます。

STEP 3-3 マルチカーソルを表示する

- 1 メニュー [グラフ表示] → [マルチカーソル] を選択

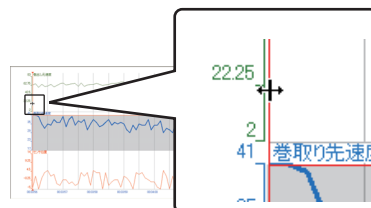


「差分情報エリア」が表示されます

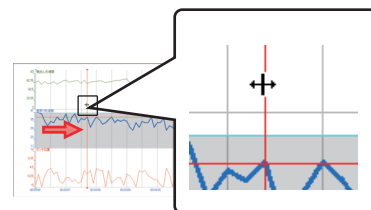


STEP 3-4 カーソルを使用してデータを確認する

- 1 任意のグラフを選択し、グラフエリアの左端にある赤、青カーソルを確認したい値の位置に移動させる



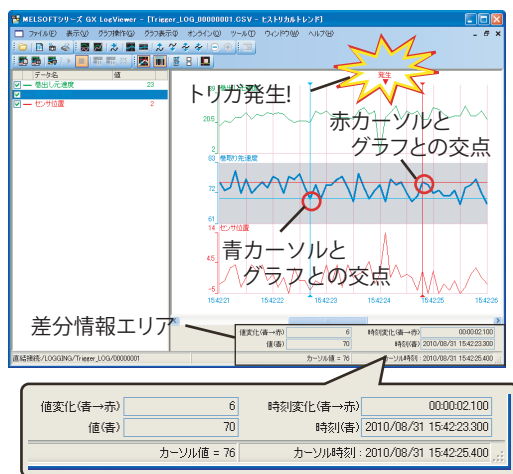
赤、青カーソルを移動



* グラフエリア上で右クリックメニュー [ここに赤カーソルを移動] または [ここに青カーソルを移動] を使用すると操作が簡単です。

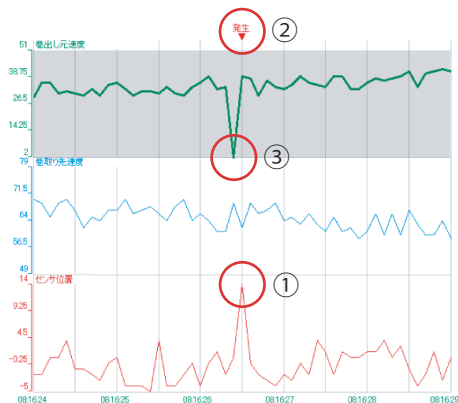
2 画面下部の差分情報エリアで値と時刻の差分を確認

- 2本のカーソル間（青→赤）の経過時間、値の変化量が表示されます。
- また、カーソル位置の値と時刻も表示されます。



3 グラフより異常発生の原因を解析

- センサ位置が急激に上がり(①), トリガが発生(②)しています。
- センサ位置が急激に上がる直前に巻出し元速度が急激に落ちて(③)いるため、これがトリガ発生の原因と推測できます。



- このようにトリガ発生前後のデータを確認することで、問題の一次診断に活用できます。

● ▶ End

CASE 2

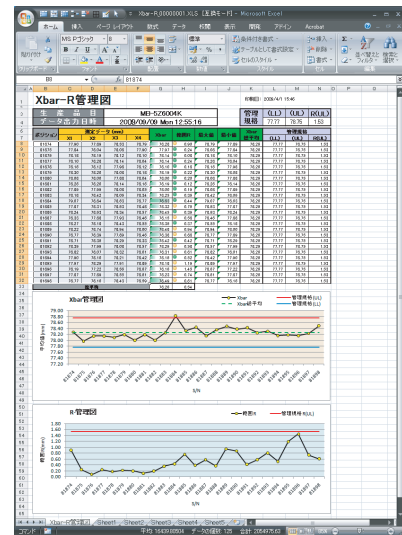
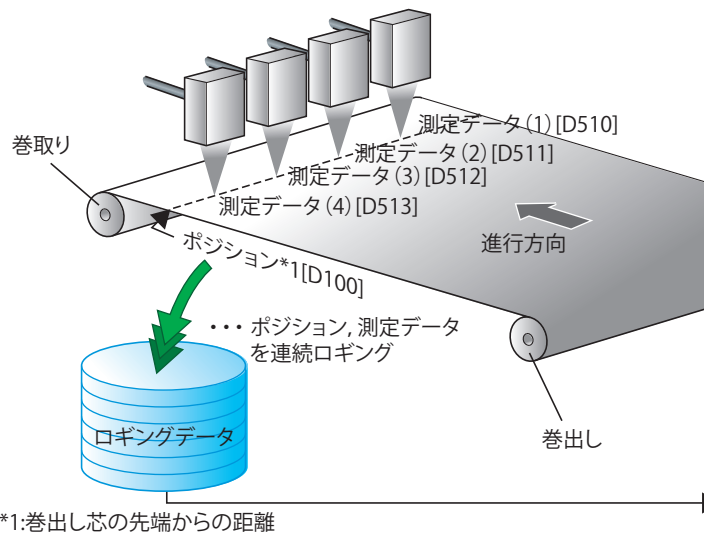
連続ロギングしたデータからレポート作成

CASE2 では「連続ロギング」の方法とそれを用いた「レポート作成」の方法について Xbar-R 管理図を例にして説明します。

イメージ

フィルムの厚み (測定データ) を 4 箇所測り, Xbar-R 管理図をレポート (Excel 形式) として出力します。

(生産品目:MB-5Z6004K[D502])



データロギング設定内容

ロギング対象データ: ポジション [D100(ダブルワード)], 測定データ(1)[D510(ワード)],
測定データ(2)[D511(ワード)], 測定データ(3)[D512(ワード)],
測定データ(4)[D513(ワード)]

データ収集間隔: 2秒

保存ファイル形式: バイナリファイル

レポート設定内容

レポート出力データ: ロギング対象データ, 生産品目 [D502(文字列)], 作成時刻

1レポート中のロギング行数: 25

レポートの作成周期: 50秒

操作の流れ

上記を例に STEP1 ~ STEP4 の流れで説明します。

STEP1:データロギングの設定 (連続ロギング)



高速データロガーユニット
設定ツールでデータロギング
の設定を行います。

STEP2:レポートの設定



高速データロガーユニット
設定ツールでレポートの
設定を行います。

STEP3:設定の書き込み



STEP1,2で設定したデータ
ロギング設定とレポート
設定を高速データロガー
ユニットに書き込みます。

STEP4:作成したレポート を確認する



高速データロガーユニット
のコンパクトフラッシュカ
ード内に作成されたレポ
ートファイルをExcelを用いて
確認します。

データロギングの設定 (連続ロギング)

指定の収集間隔でシーケンサ CPU のデータをロギングする設定を行います。

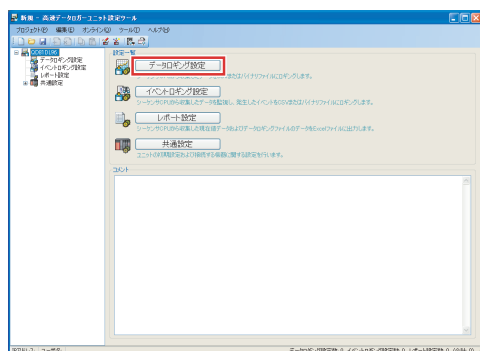
STEP 1-1 高速データロガーユニット設定ツールを起動する

- Windows® のスタート *1 → [MELSOFT アプリケーション] → [ロギング機能] *2 → [高速データロガーユニット設定ツール] を選択
- *1: [スタート画面] → [すべてのアプリ] または [スタート] → [すべてのプログラム] [すべてのアプリ] から起動します。

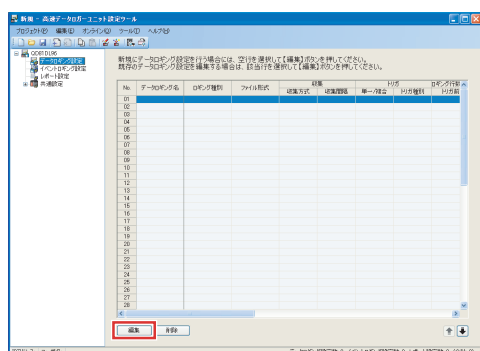
*2: Windows® 8 以降では表示されません。

STEP 1-2 データロギング設定画面を表示する

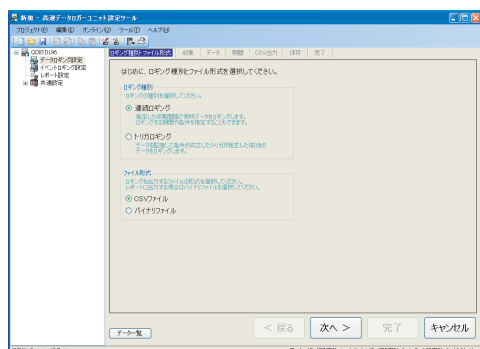
1 データロギング設定 ボタンをクリック



2 編集 ボタンをクリック

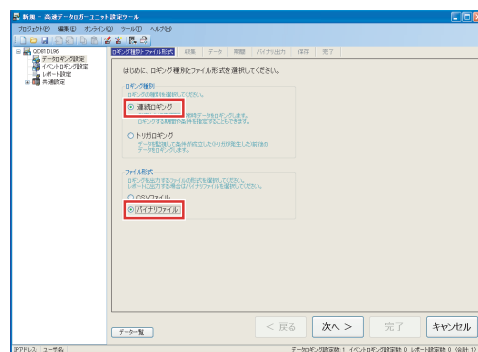


データロギング設定を行うウィザード画面が表示されます。



STEP 1-3 ロギング種別・ファイル形式を選択する

1 ロギング種別に「連続ロギング」を選択し、ファイル形式に「バイナリファイル」を選択



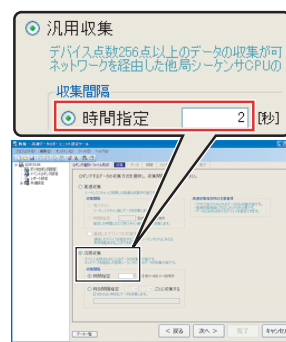
2 次へ > ボタンをクリック

備考

レポート作成機能を使用する場合、ファイル形式に「バイナリファイル」を設定する必要があります。

STEP 1-4 収集方式を選択する

1 「汎用収集」を選択し、「時間指定」に「2」を入力



2 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-5 ログ対象データを設定する

ログ対象データの設定は1つずつ設定する方法と、連続したデバイスを一括で設定する方法があります。

1 ログ対象のデータを入力(個別)

下記の画面のように入力してください。

No.	データ名	デバイス
001	ポジション	D100

データ型: ダブルワード[符号付き]

デバイス(最終)、アクセス先CPU、データ型、出力形式は自動的にデフォルト値が表示されます。

2 一括挿入 ボタンをクリック(連続)

連続したデバイスを一括で設定します。

データ一括挿入ダイアログが表示されます。

3 ログ対象のデータについて入力し、

OK ボタンをクリック

下記の画面のように指定してください。

データ名は「変更する」をチェックしてから入力します。

データ名: 測定データ

デバイス: D510

アクセス先CPU: 01: 自局管理CPU

データ型: ワード[符号付き]

サイズ: 1/100

出力形式: 倍精度実数

変更する: ☒ 添え字を付ける: ☒

連続設定: 総数: 4 (2~256) 間隔: 1 (1~2108416) 間隔を自動で設定する: ☒

指定したデータが一覧に追加されます。

No.	データ名	デバイス	先頭	最終	アクセス先CPU	データ型
001	ポジション	D100	D101	01: 自局管理CPU	ダブルワード[符号付き]	
002	測定データ(1)	D510	D511	01: 自局管理CPU	ワード[符号付き]	
003	測定データ(2)	D511	D512	01: 自局管理CPU	ワード[符号付き]	
004	測定データ(3)	D512	D513	01: 自局管理CPU	ワード[符号付き]	
005	測定データ(4)	D513	D514	01: 自局管理CPU	ワード[符号付き]	

4 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-6 ログ期間の設定を行う

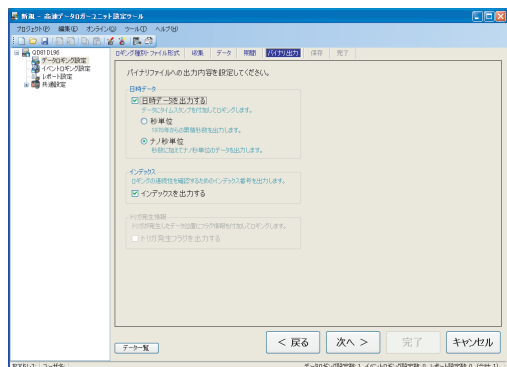
ログ期間はデフォルト設定のまま変更しません。

ログ期間: 1

1 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-7 バイナリ出力の設定を行う

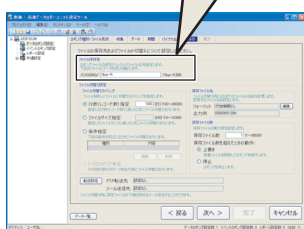
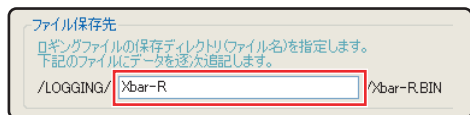
バイナリ出力はデフォルト設定のまま変更しません。



1 次へ > ボタンをクリック

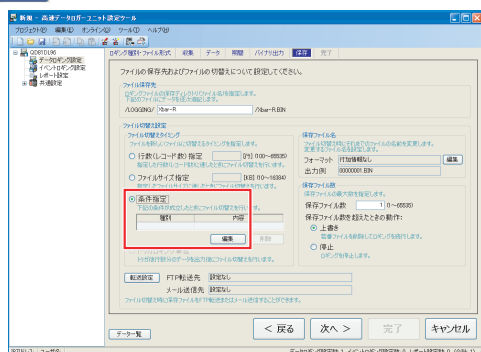
STEP 1-8 保存の設定を行う

1 ファイル保存先に "Xbar-R" を入力



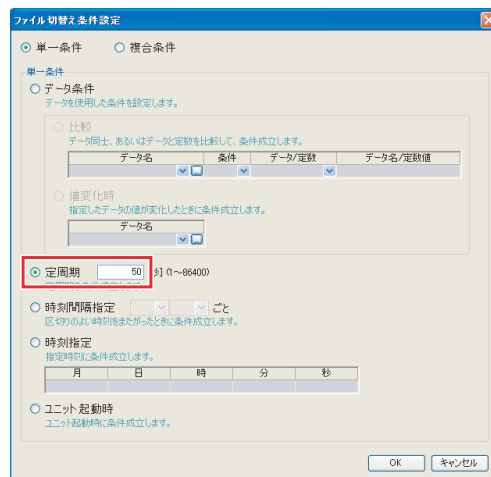
上記で指定した名称のフォルダがコンパクトフラッシュカード内に作成されます。

2 ファイル切替えタイミングの「条件指定」を選択し、
編集 ボタンをクリック

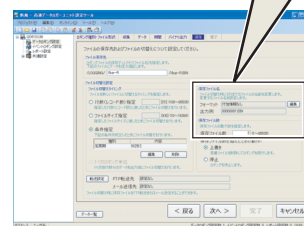
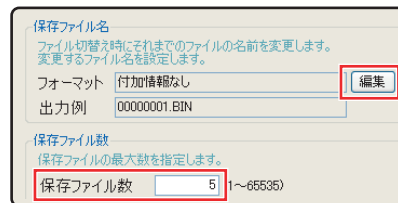


ファイル切替え条件設定ダイアログが表示されます。

3 「定周期」を選択し, "50" を入力後, OK ボタンをクリック

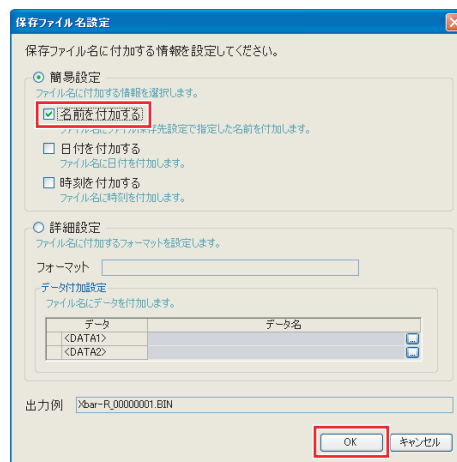


4 保存ファイル数に "5" を入力し, 編集 ボタンをクリック



保存ファイル名設定ダイアログが表示されます。

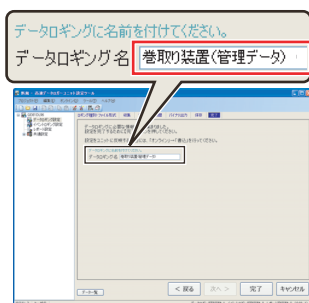
5 「名前を付加する」にチェックし, OK ボタンをクリック



6 次へ > ボタンをクリック

STEP 1-9 データロギング名を決定し設定を完了する

1 データロギング名に " 巻取り装置 (管理データ)" を入力

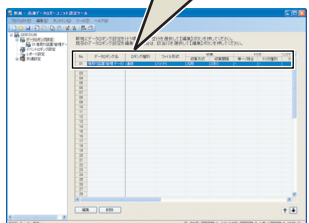


2 完了 ボタンをクリック



設定した内容がデータロギング設定一覧画面に追加されます。

No.	データロギング名	ロギング種別	ファイル形式
01	巻取り装置(管理データ)	連続	バイナリ



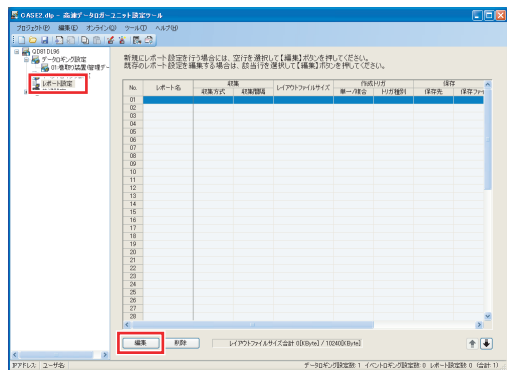
▶ End

高速データロガーユニットで収集したデータをレポート (Excel 形式のファイル) として出力する設定を行います。

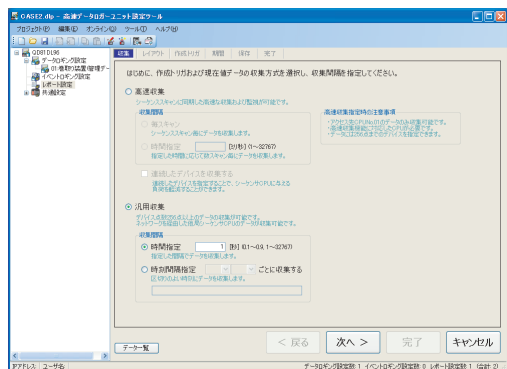
STEP 2-1 レポート設定画面を表示する

1 ツリー上の「レポート設定」をクリックし、

編集 ボタンをクリック

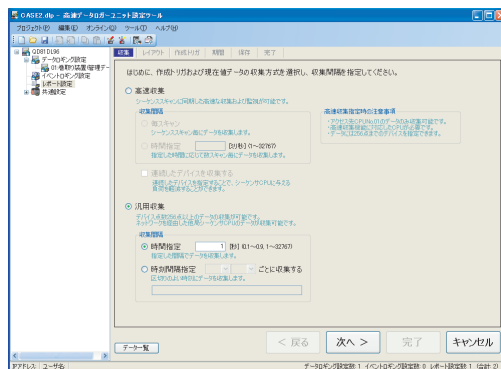


レポート設定を行うウィザード画面が表示されます。



STEP 2-2 収集方式を選択する

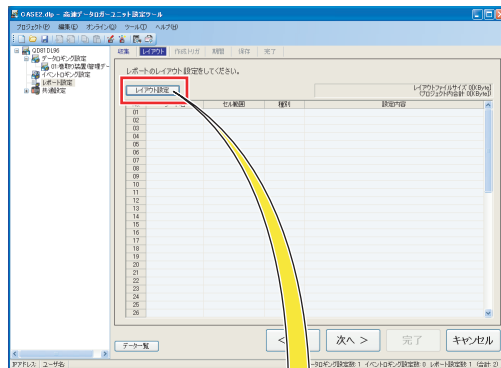
収集方式はデフォルト設定のまま変更しません。



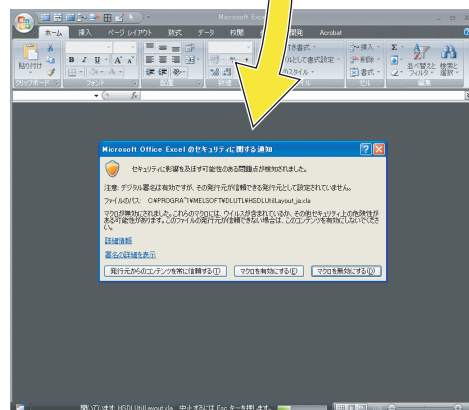
1 **次へ >** ボタンをクリック

STEP 2-3 レイアウト設定の画面を表示する

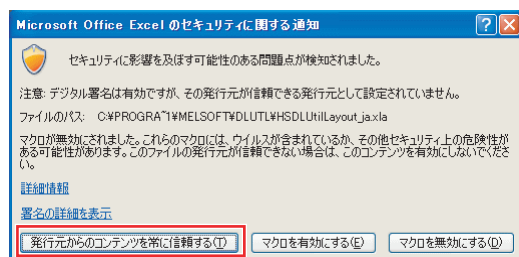
1 **レイアウト設定** ボタンをクリック



Excel が起動し、
確認画面を表示



- 2 「発行元からのコンテンツを常に信頼する(I)」ボタンをクリック
(Excel 2003 の場合「マクロを有効にする(E)」ボタンをクリック)

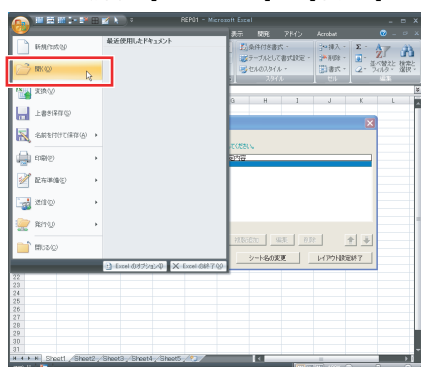


レイアウト設定ダイアログが表示されます。

STEP2-4 レイアウトファイルを取り込む

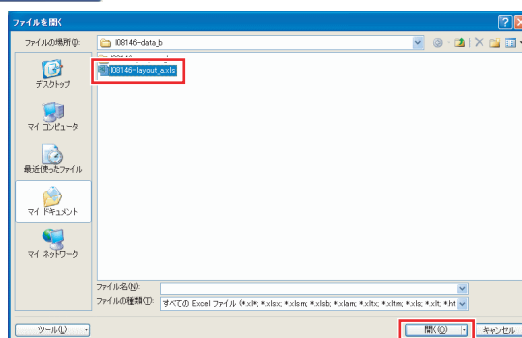
本ガイドでは、準備(準備(P.5))で三菱電機 FA サイトからダウンロードした、レイアウトファイル (I08146-layout_a.xls) を使用してレイアウトの設定を行います。レイアウトファイルのシートをレイアウト設定のシートにコピーします。

- 1 Excel2007 の [開く] → [開く] を選択
(Excel2003 の場合: [ファイル] → [開く] を選択)

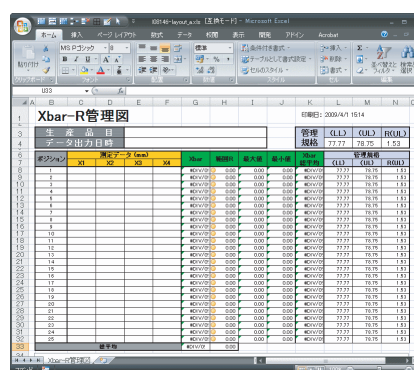


ファイルを開くダイアログが表示されます。

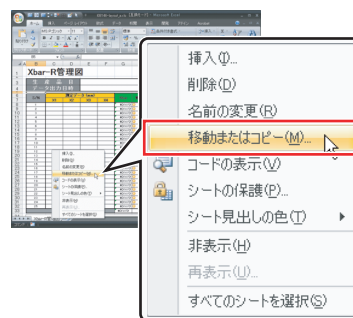
- 2 ダウンロードした「I08146-layout_a.xls」を選択し、
「開く(O)」ボタンをクリック



表とグラフの設定がされている「Xbar-R 管理図」のシートが表示されます。

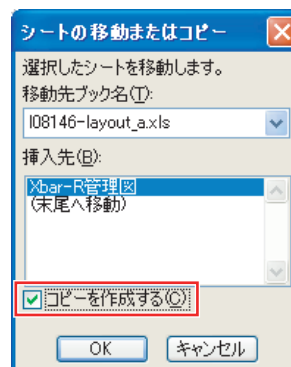


- 3 シートタブ上で右クリックし、「移動またはコピー」を選択

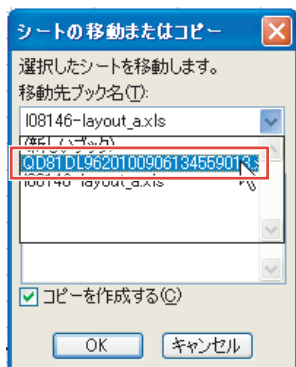


シートの移動またはコピーダイアログが表示されます。

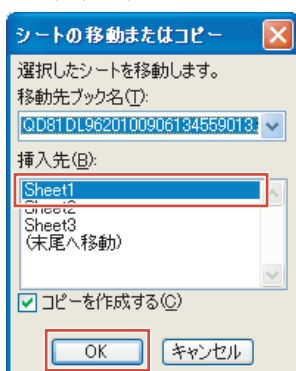
- 4 「コピーを作成する(C)」にチェック



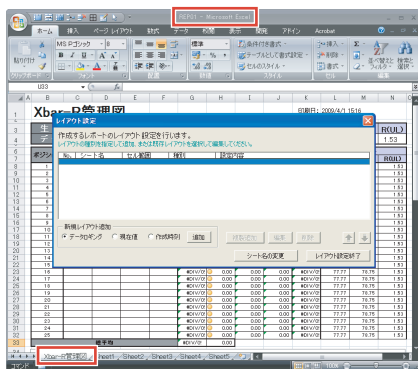
- 5 「移動先ブック名」のリストの中から
「QD81DL96YYYYMMDD・・・.xls」を選択



- 6 「挿入先」のリストの中から「Sheet1」を選択し、
OK ボタンをクリック



レイアウト設定を行うファイル「REP01」にシート「Xbar-R 管理図」がコピーされます。



「I08146-layout_a.xls」は以降の作業で使用しないため、ファイルを閉じてください。

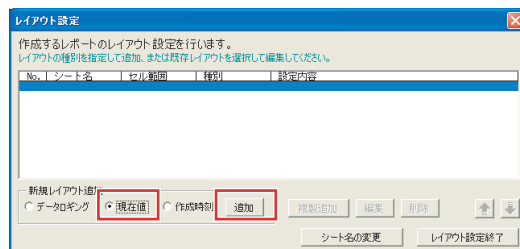
備考

シート名を変更する場合の注意事項
シート名の変更は、必ずレイアウト設定ダイアログ上の
シート名の変更 ボタンで行ってください。この方法以外
でシート名の変更を行うと、正しくレイアウト設定が行
えません。

STEP2-5 生産品目をセルに設定する

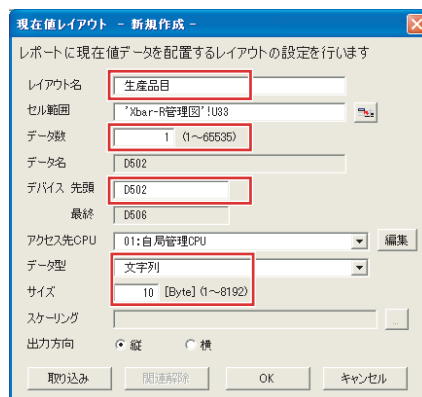
レポートファイルの生産品目の欄に、生産品目コード (D502 に格納されている現在のデータ) が入力されるよう設定します。

- 1 新規レイアウト追加の「現在値」を選択し、
追加 ボタンをクリック

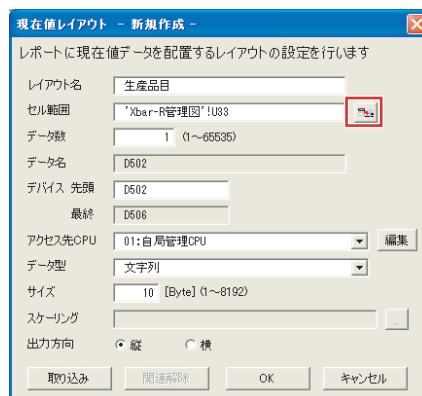


現在値レイアウトダイアログが表示されます。

- 2 「生産品目」のデータを指定 (セル範囲を除く)
下記の画面のように入力してください。

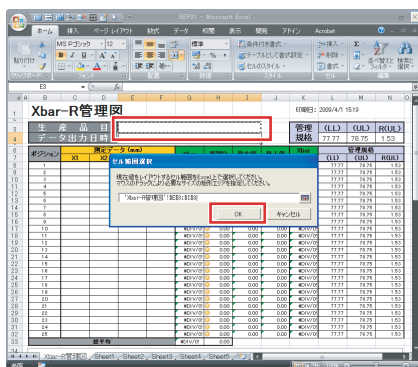


- 3 (セル範囲選択) ボタンをクリック

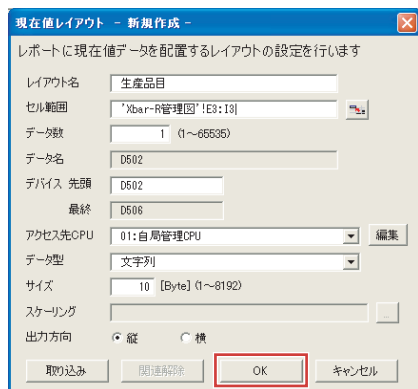


セル範囲選択ダイアログが表示されます。

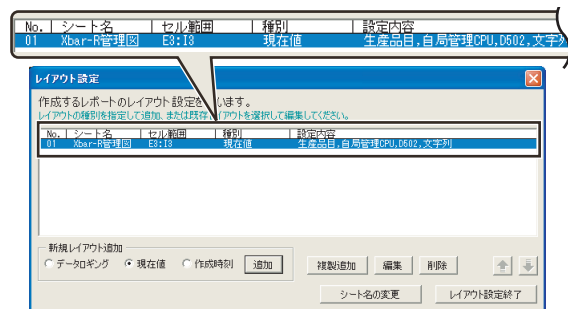
- 4 「生産品目」の右のセルを選択し、**OK** ボタンをクリック



- 5 **OK** ボタンをクリック



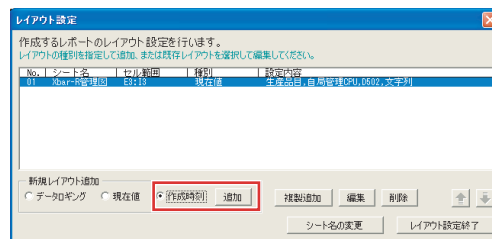
レイアウト設定ダイアログの一覧に現在値レイアウトが追加されます。



STEP 2-6 データ出力日時をセルに設定する

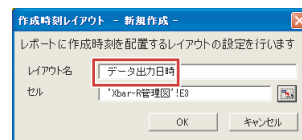
レポートファイルのデータ出力日時の欄に、レポートの作成時刻が入力されるよう設定します。

- 1 「作成時刻」を選択し、**追加** ボタンをクリック

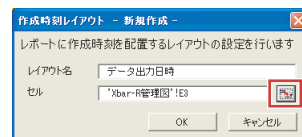


作成時刻レイアウトダイアログが表示されます。

- 2 レイアウト名に "データ出力日時" を入力

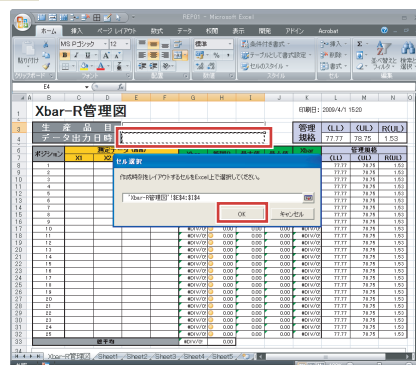


- 3 **(セル選択)** ボタンをクリック



セル選択ダイアログが表示されます。

- 4 「データ出力日時」の右のセルを選択し、**OK** ボタンをクリック



OK



No.	シート名	セル範囲	種別	設定内容
01	Xbar-管理図	E3:I3	現在値	生産品目、自局管理CPU、D502、文字
02	Xbar-管理図	E4	作業時刻	データ出力日時



STEP 2-7

「データロギング」を選択し、 ボタンをクリック



▼

2



3

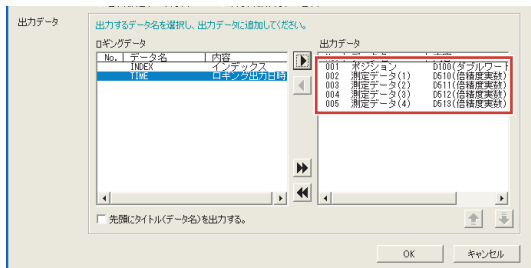
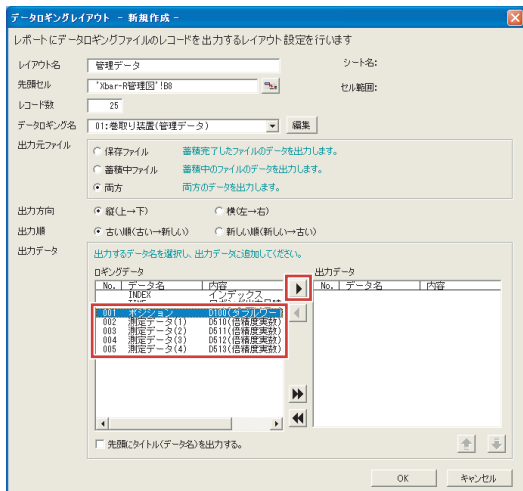


10

4

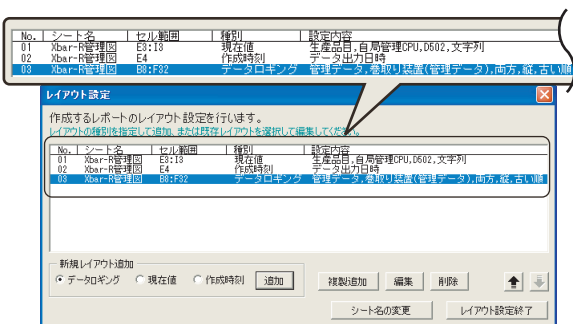


- 5 No.001～005のロギングデータを1つずつ選択し、 ボタンをクリック (データ数分操作を繰り返します。)
No.001～005のロギングデータを出力データに追加します。



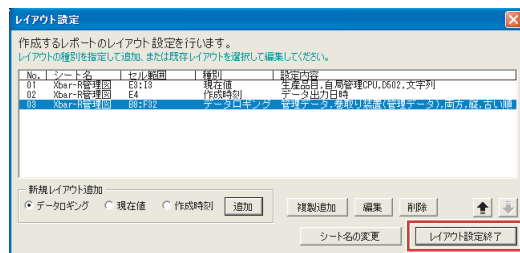
- 6 データロギングレイアウトダイアログの  ボタンをクリック

レイアウト設定ダイアログの一覧にデータロギングレイアウトが追加されます。

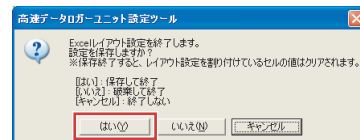


STEP 2-8 レイアウト設定を完了する

- 1 レイアウト設定終了 ボタンをクリック

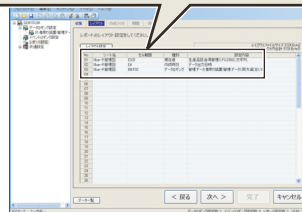


- 2 はい(Y) ボタンをクリック



レイアウト設定一覧に3件のレイアウト設定が追加されます。

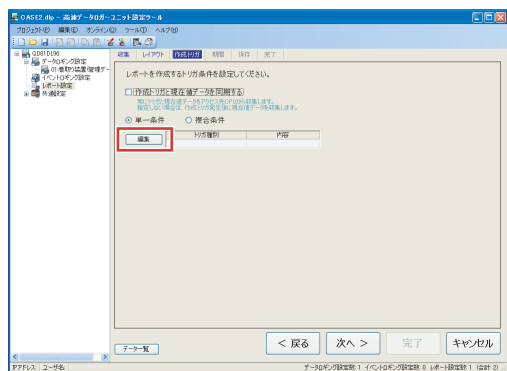
No.	シート名	セル範囲	種別	設定内容
01	Xbar-R管理図	E3:I3	現在値	生産品目:自局管理CPU.D602.文字列
02	Xbar-R管理図	E4	作成時刻	データ出力日時
03	Xbar-R管理図	B8:F32	データロギング	管理データ:巻取り装置(管理データ)両方:既古いV



- 3 次へ > ボタンをクリック

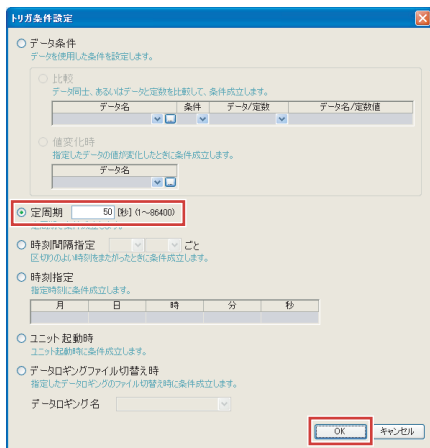
STEP 2-9 作成トリガの設定を行う

1 編集 ボタンをクリック

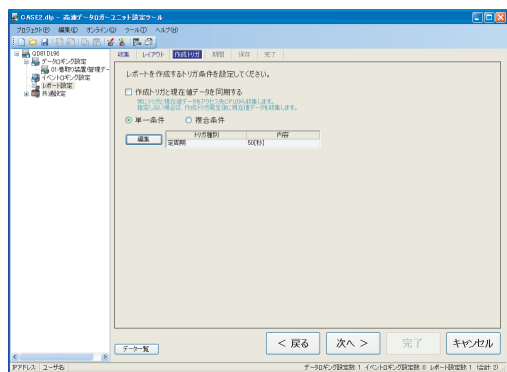


トリガ条件設定ダイアログが表示されます。

2 「定周期」を選択し, "50" を入力して, OK ボタンをクリック



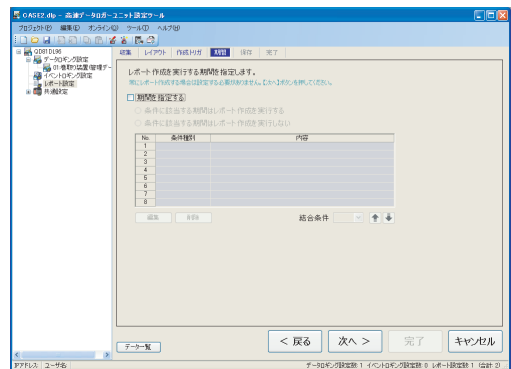
指定した条件がウィザード画面に反映されます。



3 次へ > ボタンをクリック

STEP 2-10 レポート作成期間の設定を行う

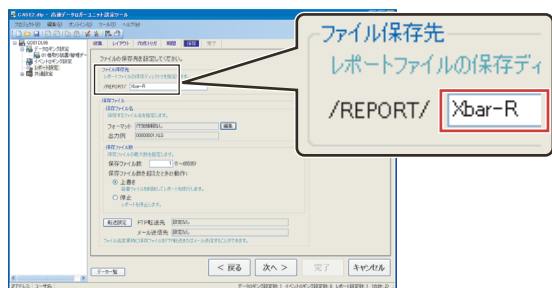
レポート作成期間はデフォルト設定のまま変更しません。



1 次へ > ボタンをクリック

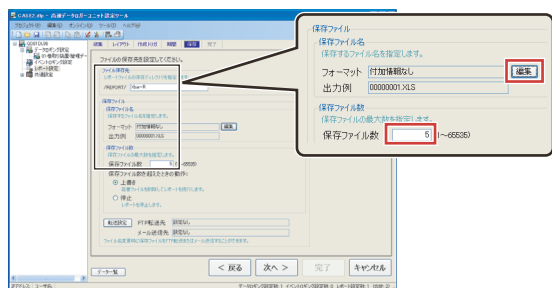
STEP 2-11 保存の設定を行う

1 ファイル保存先に "Xbar-R" を入力



上記で指定した名称のフォルダがコンパクトフラッシュカード内に作成されます。

2 保存ファイル数に "5" を入力し, 編集 ボタンをクリック



保存ファイル名設定ダイアログが表示されます。

高速データロガー
ユニットを使ってみよう

CASE 2

3 「名前を付加する」にチェックし、**OK** ボタンをクリック

4 **次へ >** ボタンをクリック

STEP 2-12 レポート名を決定し、設定を完了する

1 レポート名に " 巻取り装置 (管理図)" を入力

2 **完了** ボタンをクリック

設定した内容がレポート設定一覧画面に追加されます。

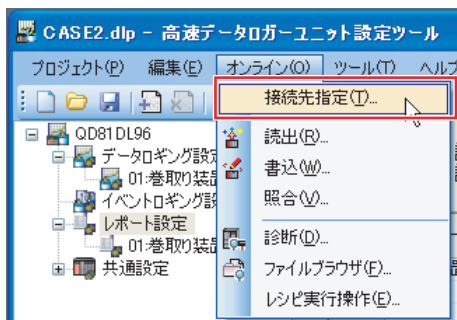
No.	レポート名	収集		レイアウトファイルサイズ	単位
		収集方式	収集間隔		
01	巻取り装置(管理図)	汎用	1[秒]	57[KByte]	単一

▶ End

STEP1,2 で設定したデータロギング設定とレポート設定を高速データロガーユニットに書き込みます。

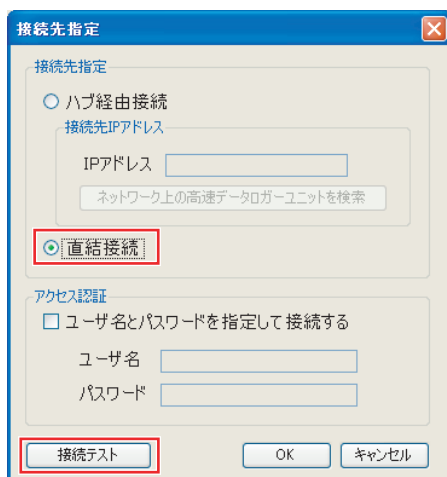
STEP3-1 接続するユニットを指定する

1 メニュー [オンライン] → [接続先指定] を選択

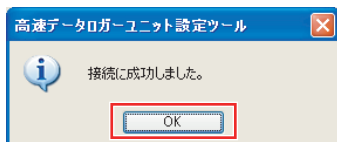


接続先指定ダイアログが表示されます。

2 「直結接続」を選択し、[接続テスト] ボタンをクリック



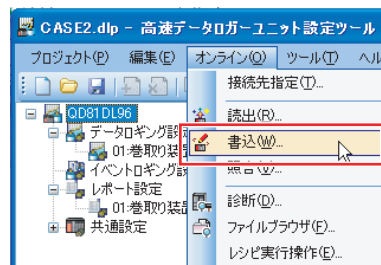
3 [OK] ボタンをクリック



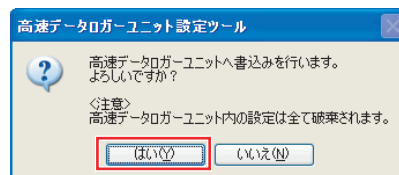
4 接続先指定ダイアログの [OK] ボタンをクリック

STEP3-2 設定を書き込む

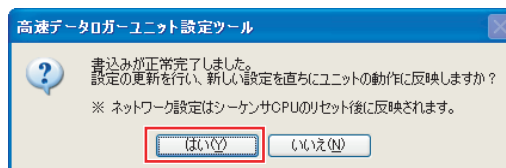
1 メニュー [オンライン] → [書き込] を選択



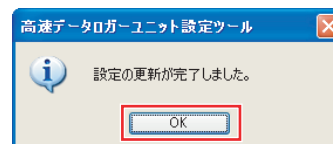
2 [はい(Y)] ボタンをクリック



3 [はい(Y)] ボタンをクリック



4 [OK] ボタンをクリック



高速データロガーユニットに装着されたコンパクトフラッシュカードの中にデータロギング設定とレポート設定が書き込まれます。

準備 (準備) システムの起動 (P. 6)) で CPU を RUN 状態にしているため、書き込み後すぐにロギングとレポート作成が開始されます。

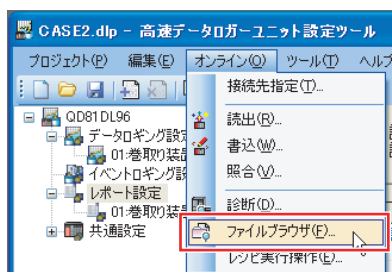
● End

STEP 4 作成したレポートを確認する

STEP3 で書き込んだ設定で作成したレポートを Excel で確認します。

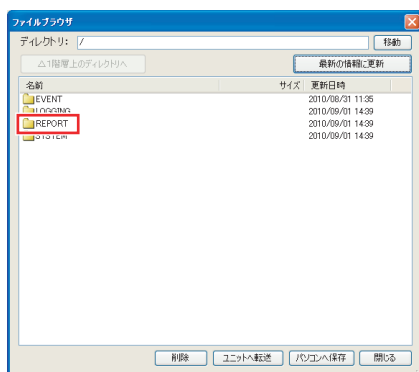
STEP4-1 レポートファイルをパソコンへ保存する

1 メニュー[オンライン]→[ファイルブラウザ]を選択



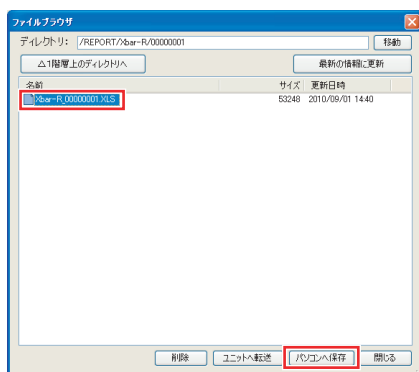
ファイルブラウザダイアログが表示されます。

2 表示されているフォルダを「REPORT」→「Xbar-R」→「00000001」の順にダブルクリック



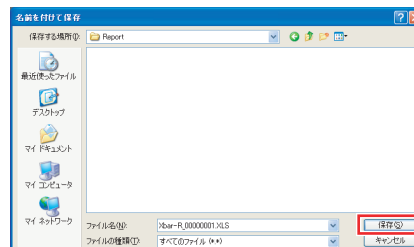
一覧にフォルダが表示されない場合は、最新の情報を更新をクリックしてください。

3 XLS ファイルを選択し、パソコンへ保存 ボタンをクリック



4 名前を付けて保存ダイアログで保存先(任意)を指定し、

保存(S) ボタンをクリック

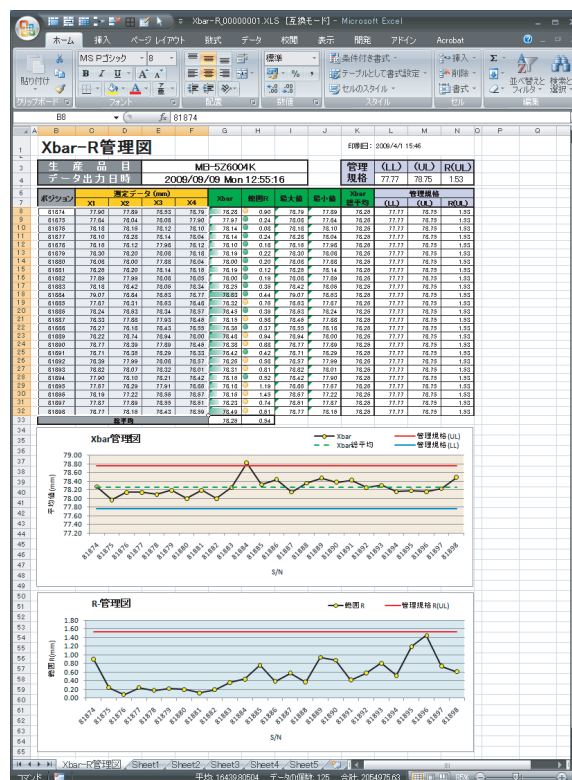


5 ファイルブラウザダイアログの 閉じる ボタンをクリック

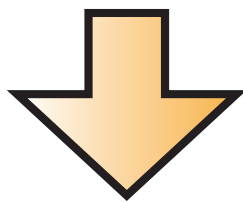
STEP4-2 レポートを Excel で確認する

1 パソコンへ保存した XLS ファイルを開く

2 シート「Xbar-R 管理図」の表およびグラフにロギングデータが反映されていることを確認



▶ End



これで高速データロガーユニットクイックスタートガイドは終わりです。

高速データロガーユニットには本ガイドで紹介したロギング機能、レポート機能の他にも多数の機能があります。機能の詳細につきましては下記マニュアルをご覧ください。

📖 高速データロガーユニット ユーザーズマニュアル (詳細編) ・ ・ ・ SH-080801

Excel, Windows, Windows Vista, および Windows XP は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本文中における会社名、システム名、製品名などは、一般に各社の登録商標または商標です。

本文中で、商標記号 (™, ®) は明記していない場合があります。

ご採用に際してのご注意

このカタログは、Qシリーズシーケンサの代表的な特長機能を説明した資料です。使用上の制約事項、ユニットの組み合わせによる制約事項などがすべて記載されているわけではありません。ご使用にあたりましては、必ず製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

当社の責に帰すことができない事由から生じた損害、当社製品の故障に起因するお客様の機会損失、逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷およびその他の業務に対する保証については、当社は責任を負いかねます。

⚠ 安全にお使いいただくために

- このカタログに記載された製品を正しくお使いいただくために、ご使用前に必ず「マニュアル」をお読み下さい。
- この製品は一般工業等を対象とした汎用品として製作されたもので、人命にかかわるような状況下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。
- この製品を原子力用、電力用、航空宇宙用、医療用、乗用移動体用の機器あるいはシステムなど特殊用途への適用をご検討の際には、当社の営業担当窓口までご照会ください。
- この製品は厳重な品質管理体制の下に製造しておりますが、この製品の故障により重大な事故または損失の発生が予測される設備への適用に際しては、バックアップやフェールセーフ機能を系統的に設置してください。

MEMO

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒110-0016	東京都台東区台東1-30-7 (秋葉原アイマークビル)	(03) 5812-1450
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1 (北海道ビル)	(011) 212-3794
東北支社	〒980-0013	仙台市青葉区花京院1-1-20 (花京院スクエア)	(022) 216-4546
関越支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2 (明治安田生命さいたま新都心ビル)	(048) 600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通1-4-1 (マルタケビル)	(025) 241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい2-2-1 (横浜ランドマークタワー)	(045) 224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1 (金沢パークビル)	(076) 233-5502
中部支社	〒450-6423	名古屋市中村区名駅3-28-12 (大名古屋ビルヂング)	(052) 565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10 (矢作豊田ビル)	(0565) 34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区大深町4-20 (グランフロント大阪タワーA)	(06) 6486-4122
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32 (ニッセイ広島ビル)	(082) 248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8 (日本生命高松駅前ビル)	(087) 825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1 (天神ビル)	(092) 721-2247

三菱電機 FA

検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

メンバー登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

三菱電機FA機器電話

●電話技術相談窓口 受付時間※1 月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種		電話番号	自動窓口案内 選択番号※7	対象機種		電話番号	自動窓口案内 選択番号※7		
自動窓口案内		052-712-2444	-	表示器 GOT		GOT2000/1000シリーズ	4→1		
				MELSOFT GTシリーズ			4→2		
エッジコンピューティング製品		052-712-2370※2	8	SCADA GENESIS64™		052-712-2962※2※6	-		
シーケンサ	MELSEC IQ-R/Q/Lシーケンサ (CPU内蔵Ethernet機能などネットワークを除く)	052-711-5111	2→2	サーボ/位置決めユニット/ モーションユニット/ シンプルモーションユニット/ モーションコントローラ/ センシングユニット/ 組み込み型サーボシステム コントローラ	MELSERVOシリーズ		1→2		
					位置決めユニット (MELSEC IQ-R/Q/Lシリーズ)		1→2		
	MELSEC IQ-F/FXシーケンサ全般	052-725-2271※3	2→1			モーションユニット (MELSEC IQ-R/Q-Fシリーズ)		1→1	
	ネットワークユニット(CC-Linkファミリ/ MELSECNET/Ethernet/シリアル通信)	052-712-2578	2→3			モーションソフトウェア		1→1	
	MELSOFTシーケンサ エンジニアリング ソフトウェア	052-711-0037	2→2			シンプルモーションユニット (MELSEC IQ-R/Q-F/Q/Lシリーズ)		1→2	
	MELSOFT統合 エンジニアリング環境					モーションCPU (MELSEC IQ-R/Qシリーズ)		1→1	
		MELSOFT Navigator/ MELSOFT Update Manager	052-799-3591※2		2→6		センシングユニット (MR-MTシリーズ)		1→2
	IQ Sensor Solution					シンプルモーションボード/ ポジションボード		1→2	
	MELSOFT通信支援 ソフトウェアツール	052-712-2370※2	2→4			MELSOFT MTシリーズ/ MRシリーズ/EMシリーズ		1→2	
	MELSEC/パソコンボード								
	C言語コントローラ/C言語インテリジェント機能ユニット	052-799-3592※2	2→5		センサレスサーボ	FR-E700EX/MM-GKR	052-722-2182	3	
	MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット/高速 データコミュニケーションユニット/OPC UAサーバユニット				インバータ	FREQROLシリーズ	052-722-2182	-	
	システムレコーダ				三相モータ	三相モータ225Vフレーム以下	0536-25-0900※2※4	-	
					産業用ロボット	MELFAシリーズ	052-721-0100	5	
						電磁クラッチ・ブレーキ/デンジョンコントローラ	052-712-5430※5	-	
						データ収集アナライザ	MELQIC IU1/IU2シリーズ	052-712-5440※5	-
						低圧開閉器	MS-Tシリーズ/MS-Nシリーズ US-Nシリーズ	052-719-4170	7→2
						低圧遮断器	ノーヒューズ遮断器/ 漏電遮断器/MDUブレーカ/ 気中遮断器 (ACB) など	052-719-4559	7→1
						電力管理用計器	電力量計/計器用変成器/ 指示電圧計器/管理用計器/ タイムスイッチ	052-719-4556	7→3
					省エネ支援機器	EcoServer/E-Energy/ 検針システム/エネルギー計測 ユニット/ B/NETなど	052-719-4557※2※3	7→4	
					小容量UPS (5kVA以下)	FW-Sシリーズ/FW-Vシリーズ/ FW-Aシリーズ/FW-Fシリーズ	052-799-9489※2※6	7→5	

お問い合わせの際には、今一度電話番号をお確かめの上、お掛け間違いのないようお願いいたします。
※1：春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2：土曜・日曜・祝日を除く ※3：金曜は17:00まで ※4：月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30
※5：受付時間9:00～17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休日を除く) ※6：月曜～金曜の9:00～17:00
※7：選択番号の入力は、自動窓口案内冒頭のお客様相談内容に関する代理店、 商社への提供可否確認の回答後をお願いいたします。